

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	どきん 1時間(読①) 教:3上p①～1 ◇表現に着目しながら詩に描かれている様子を想像し、工夫して音読することができる。(知(1)乙、読(1)カ)	①「どきん」を音読する。 ②感想やおもしろい表現について発表し合い、様子を想像する。 ③描かれている様子をもとに工夫して音読する。 ④学習の振り返りをする。	知 ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで内容の大体を意識し、今までの学習を生かして工夫して音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばでつながる すごろくを作ろう 2時間(話聞②) 教:3上p14～15 ◇「すごろく」作りを通して、互いの考えを認め合いながら話し合えることができる。(知(1)ア、イ、読(1)オ)	①学習課題を確かめ、楽しい行事や事柄など意見を出し合う。 ②出し合った中からまず目に入れるものを選び、ルールを話し合いながら書き入れる。 ③作ったすごろくで遊び、気付いたことを出し合う。 ④もう一度グループですごろくを作り、学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 話 ○相手を見て話したり聞いたりすることができる。[知・技(1)イ] 学 ○目的や進め方を確認し、考えをまとめることができる。[思・判・表A(1)オ] 学 ○進んで話し合いの目的を確認し、学習課題に沿って話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	1 へんかのきっかけを読もう つり橋わたれ 6時間(読⑥) 教:3上p16～27 ◇場面の移り変わりや人物の変化とを結び付けながら音読を通して理解を深め、感想を伝えることができる。(知(1)ク、書(1)エ、読(1)イ、エ、カ)	①題名から物語を想像し、発表し合う。 ②全文を読み、初発の感想を交流したり、題名の話者について考えたりする。 ③提示された会話文を並べかえ、場面ごとに分ける。 ④人物の気持ちの変化やそのきっかけについて考える。 ⑤人物の気持ちを想像して音読する。 ⑥自分の考えや感想をノートに書く。 ⑦グループで感想を伝え合い、よいところを紹介する。 ⑧題名は誰が言った言葉なのかを考える。 ⑨学習の振り返りをする。	知 ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 書 ○文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)エ] 読 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] 読 ○登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで人物の気持ちの変化とそのきっかけを捉え、読んだ感想を伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	<p>みんなにつたえよう しょうかいしよう、わたしのお気に入り 2時間(話聞②) 教：3上p30～31</p> <p>◇自分のお気に入りについて、聞き手に分かるように工夫して話すことができる。(知(1)イ、読(1)ア、ウ)</p>	<p>①学習の流れを確かめる。 ②ペアやグループで交流し、お気に入りのものを分類する。 ③どのようにスピーチするかを考える。 ④簡単な発表メモを作り、スピーチの練習をする。 ⑤話し方や聞き方について確かめ、話し方を考えながら練習する。 ⑥友達の前でスピーチを行い、感想を交流する。 ⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。[知・技(1)イ] 話 ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア] ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。[思・判・表 A(1)ウ] 学 ○進んで話し方を工夫し、今までの学習を生かして、自分のお気に入りについて紹介しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>言葉のいずみ1 国語じてんの使い方 3時間(知技③) 教：3上p32～35</p> <p>◇国語辞典の仕組みや使い方を理解し、活用することができる。(知(1)オ、(2)イ)</p>	<p>①国語辞典の仕組みを理解する。 ②見出語の並び方を知り、使い方に慣れる。 ③活用のある語の見出し語や文脈に合った意味などを確かめ、国語辞典の必要性を知る。 ④国語辞を使って、自分が調べたいものを調べる。</p>	<p>知 ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 学 ○辞書の使い方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] ○積極的に辞書を使い、学習課題に沿って、言葉の意味を調べようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>きせつのはつり 春 1時間(書①) 教：3上p36～37</p> <p>◇春の行事に興味をもち、それに関わる言葉を集めたり、思い出したことを書いたりすることができる。(知(1)オ、書(1)ア)</p>	<p>①春の行事のイラストを見て、めあてを確かめる。 ②体験した春の行事を思い出し、発表する。 ③体験した行事の中から選んだものをカードにまとめる。 ④カードをもとに交流する。 ⑤学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 学 ○進んで季節に関わる語句の量を増し、学習課題に沿って、体験した春の行事についての文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
5月	<p>2 要点をおさえて読もう ミラクル ミルク 5時間(読⑤) 教：3上p38～45</p> <p>◇段落の働きを確かめながら、段落ごとの中心となる語や文(要点)や段落同士の関係を捉え、読むことができる。(知(1)カ、読(1)ア、ウ、カ)</p>	<p>①全文を読み、感想を伝え合う。 ②問いと答えの文を見つけ、文章全体を三つに分ける。 ③「中」の三つの事例を比較して考える。 ④要点のまとめ方を確かめ、各段落の要点をまとめる。 ⑤まとめた要点をもとに交流し、文章全体を整理する。 ⑥学習を振り返り、感想を交流する。</p>	<p>知 ○段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] 読 ○段落相互の関係に着目することができる。[思・判・表 C(1)ア] ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。[思・判・表 C(1)ウ] ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○積極的に中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、段落の要点をまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
5月	調べて書こう 食べ物のみみつをさぐろう 8時間（書⑥） 教：3上p46～49 ◇調べたことを分かりやすく説明するために、まとまりを考えて文章を書くことができる。（知(1)カ、(2)イ、(1)ア、イ、オ）	①学習課題と進め方を確かめる。 ②文章例を読み、文章の書き方を知る。 ③例示された食べ物について知っていることを出し合う。 ④カードの書き方や辞典の使い方を確かめ、調べて分かったことをカードにまとめる。 ⑤カードをもとに文章構成を組み立てメモにまとめる。 ⑥メモをもとに文章を書く。 ⑦読み返したりアドバイスし合ったりして、修正箇所を検討し、清書する。 ⑧文章を読み合い、よいところを伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。	知 ○指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] ○出典の示し方、事典の使い方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 書 ○集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] ○内容のまとまりで段落を作り、文章の構成を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ] ○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。[思・判・表 B(1)オ] 学 ○進んで内容のまとまりで段落を作って文章の構成を考え、これまでの学習を生かして調べたことを説明する文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	調べよう まとめよう 「百科事典」を引いて調べよう 2時間（読②） 教：3上p50～51 ◇百科事典の引き方を知り、調べたい事柄がどこに載っているかを見つけ、短くまとめることができる。（知(2)イ、(3)オ、読(1)ウ、(2)ウ）	①百科事典の仕組みと調べ方を知る。 ②手順に従い、調べたい事柄がどこにどのように載っているか確かめる。 ③調べる手順とまとめ方を知る。 ④調べたい事柄を調べ、必要な語や文を書き出してまとめる。 ⑤分かったことを発表する。	知 ○必要な語句などの書き留め方、事典の使い方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 読 ○読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。[知・技(3)オ] 学 ○中心となる語や文を見つけることができる。[思・判・表 C(1)ウ] ○進んで事典の使い方を理解し、学習課題に沿って事典を使い、調べようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉のひびきやリズムを楽しもう 俳句 4時間（知技④） 教：3上p52～57 ◇俳句に親しみ、リズムや響きを感じ取りながら、音読や暗唱をすることができる。（知(1)ア、(3)ア）	①平仮名の俳句を読み、風景を想像する。 ②「五・七・五」の十七音の音数や季語などをつかみ、俳句がどのようなものかを知る。 ③五音・七音を意識して音読する。 ④「かえる」が出てくる俳句を音読し、気に入った句について感想を伝え合う。 ⑤「花・月・虫」を詠んだ俳句について、季節を表す言葉を確認し、くり返し音読する。 ⑥気に入った俳句を選び、想像した情景についてグループで伝え合う。 ⑦歳時記等を活用して、興味をもった俳句をいくつか選ぶ。 ⑧選んだ俳句を音読して紹介し合い、感想を伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア] 学 ○易しい文語調の俳句に親しみ、言葉の響きやリズムを楽しみながら、進んで音読したり暗唱したりしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
6月	言葉のいずみ2 音読み・訓読み・送りがない 2時間（知技②） 教：3上p58～60 ◇漢字の音読みと訓読みの意味や由来、同音異字語や送り仮名による意味の違いについて理解し、適切に使うことができる。（知(1)ウ、エ）	①例文を読み、漢字の音読みと訓読みを知り、その由来を理解する。 ②同じ訓読みや音読みをもつ漢字について、国語辞典を使って調べる。 ③解説や例文をもとに、送り仮名の意味と働きを捉える。 ④送り仮名によって読み方や意味が違ってくる漢字について調べたり、文にして確かめたりする。	知 ○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] ○第三学年に配当されている漢字を読むことができる。また当該学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで漢字の読み方や送り仮名の付け方を理解し、今までの学習を生かして、漢字を文意に合わせて使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	<p>2年生で習った漢字①</p> <p>言葉をつないで文を作ろう</p> <p>1時間（書①）</p> <p>教：3上p61</p> <p>◇二年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。（知(1)エ、書(1)エ）</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。</p> <p>②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。</p> <p>③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。</p> <p>④友達と読み合い、主述の関係や漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。</p>	<p>知 ○第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ]</p> <p>書 ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表 B(1)エ]</p> <p>学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとしている。</p>
	<p>分類しよう</p> <p>いろいろな見方で分類しよう</p> <p>3時間（知技①話聞②）</p> <p>教：3上p62～64</p> <p>◇複数の情報から共通の性質を見だし、観点を明確にして分類することで、情報を整理することができる。（知(2)イ、話(1)ア、イ）</p>	<p>①分類の仕方について知る。</p> <p>②提示された生き物の絵を見ていろいろな見方で分類し、交流する。</p> <p>③衣類の図を見て、気付いたことを出し合う。</p> <p>④自分の見方で分類し、表にまとめる。</p> <p>⑤分類結果を交流し、見方や分類の仕方の違いについて話し合う。</p> <p>⑥身の回りのものを見つけて分類し、表にまとめて交流する。</p> <p>⑦分類したものをもとに分かりやすく説明する。</p> <p>⑧分類するよさについて話し合い、学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○分類の仕方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ]</p> <p>話 ○目的を意識して、材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア]</p> <p>学 ○相手に伝わるように、理由を挙げながら話の構成を考えることができる。[思・判・表 A(1)イ]</p> <p>学 ○進んで見方を決めて分類する方法を理解し、学習課題に沿って表にまとめようとしている。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>漢字の広場</p> <p>1時間（知技①）</p> <p>教：3上p65</p> <p>◇三年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。（知(1)エ）</p>	<p>①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。</p> <p>②新出漢字を書く練習をする。</p> <p>③漢字や文の間違いを正す。</p>	<p>知 ○第三学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ]</p> <p>学 ○進んで三年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>きせつのだより 夏</p> <p>1時間（書①）</p> <p>教：3上p66～67</p> <p>◇夏の行事に興味をもち、それに関わる言葉を集めたり、思い出したことを書いたりすることができる。（知(1)オ、書(1)ア）</p>	<p>①夏の行事のイラストを見て、めあてを確かめる。</p> <p>②体験した夏の行事を思い出し、発表する。</p> <p>③体験した行事の中から選んだものをカードにまとめる。</p> <p>④カードをもとに交流する。</p> <p>⑤学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ]</p> <p>書 ○経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア]</p> <p>学 ○進んで語句の量を増し、学習課題に沿って、体験した夏の行事についての文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>3 だん落どうしの関係を読もう</p> <p>合図としるし</p> <p>5時間（読⑤）</p> <p>教：3上p68～75</p> <p>◇中心となる語や文をもとに段落を押さえ、問いの文や指示語を手がかりに、段落同士の関係を捉えることができる。（知(1)カ、読(1)エ、ウ）</p>	<p>①全文を読み、三つのまとまりに分ける。</p> <p>②事例のまとまりを読み取り、表に整理する。</p> <p>③問いの文を手がかりに「はじめ」のまとまりと「中」のまとまりとの関係や中心となる語を押さえる。</p> <p>④「中」のまとまりと「終わり」のまとまりとの関係をつかむ。</p> <p>⑤読んで分かったことを伝え合う。</p>	<p>知 ○指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ]</p> <p>読 ○段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア]</p> <p>学 ○目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。[思・判・表 C(1)ウ]</p> <p>学 ○進んで段落同士の関係を捉え、学習課題に沿って読んだ感想を伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	見つけたことを書こう 見つけよう、合図とし 8時間（書⑧） 教：3上p76～79 ◇調べた身の回りの合図とし りについて、分かりやすく説明するために、内容のまとめりや文章構成を考えて文章を書くことができる。（知(1)カ、書(1)ア、イ、ウ）	①学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。 ②身の回りにある合図やしるしについて話し合う。 ③文書例を見て、文章の書き方を知る。 ④学校内の合図としるしを調べ、その中から説明したいものを選ぶ。 ⑤選んだ合図としるしについて調べ、カードにまとめる。 ⑥文章の組み立て方を考え、表に整理する。 ⑦文章例を参考にしながら文章を書く。 ⑧書いたものを読み合い、助言をもとによりよい文章にする。 ⑨書いたものをもとに交流し、感想を伝え合う。 ⑩学習の振り返りをする。	知 ○指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] 書 ○目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとめりで段落を作り、文章の構成を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ] ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 学 ○進んで事例のまとめりや構成を考え、今までの学習を生かして文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
7月	言葉のさまり しゅうしょく語 2時間（知技①書①） 教：3上p80～83 ◇修飾語の働きを理解し、適切に使うことができる。（知(1)カ、書(1)エ）	①文の構成における既習の主語・述語・修飾語の意味と働きを想起する。 ②修飾語の働きを調べ、関係を捉える。 ③絵に当てはまる修飾語を入れて、様子を確かめる。 ④言い方が似ていても表す様子が違う修飾語があることを知る。 ⑤絵を見て、様子の違いを考えながら、修飾語を出し合ったり文を作ったりする。	知 ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。[知・技(1)カ] 書 ○相手や目的を意識した表現になっているかを確認して、文や文章を整えることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○積極的に修飾語の働きを理解し、これまでの学習を生かして、修飾と被修飾との関係を意識して文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	4やくわりを決めて話し合おう クラスレクリエーションをしよう 5時間（話聞⑤） 教：3上p84～91 ◇それぞれの役割を意識しながら、課題に沿って話し合うことができる。（知(2)ア、書(1)ア、オ、(2)ウ）	①これまでのクラスでの話し合いを振り返り、困ったことなどを話し合う。 ②学級会の議題を決め、計画書を作る。 ③話し合いの進め方や注意点を確かめる。 ④話し合うグループと聞くグループに分け、ミニ学級会を交互に行う。 ⑤それぞれの話し合いについて、よかったところや改善点を出し合う。 ⑥よりよい話し合いの仕方について考え、学習のまとめをする。	主 ○考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。[知・技(2)ア] 話 ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決めことができる。[思・判・表 A(1)ア] ○目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。[思・判・表 A(1)オ] 学 ○進んで話し合いの目的や進め方を考え、学習課題に沿ってよりよい話し合いをしようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
7月	<p>2年生で習った漢字② 言葉をつないで文を作ろう 1時間 (書①) 教：3上p92</p> <p>◇2年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。 (知(1)工、(読(1)工)</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。</p>	<p>知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>読書に親しもう おもしろさを話し合おう あらしの夜に 7時間 (知技④読③) 教：3上p93～109</p> <p>◇物語を楽しんで読み、感想を交流してまとめることで読書の幅を広げることができる。(知(3)才、(読(1)イ、カ、(2)イ)</p>	<p>①「あらしの夜に」を読み、感想を伝え合う。 ②学習計画を立てる。 ③出し合った感想をもとにグループで交流し、おもしろさを分類する。 ④分類したものの中から興味のあるものを選び、グループで話し合う。 ⑤ほかの友達に紹介するために話し合ったことをまとめる。 ⑥話し合ったおもしろさを発表し、クラス全体で共有する。 ⑦「読書の足あと」カードの書き方を確かめる。 ⑧関心のある本を選んで読み、カードに記録する。 ⑨クラス全体でカードを読み合い、学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。[知・技(3)オ] 読 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] 学 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○幅広く読書に親しみ、読書の楽しさやよさを知ることで、これからの読書生活につなげようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
9月	<p>詩を味わおう うち 知ってんねん 夕日がせなかをおしてくる 2時間 (読②) 教：3上p110～113</p> <p>◇表現に着目して、連ごとの様子やそのつながりを想像しながら音読し、感想を伝え合うことができる。(知(1)ク、(読(1)工、カ)</p>	<p>①「うち知ってんねん」の題名から考えたことを話し合う。 ②詩を音読し、表現のおもしろさを見つける。 ③描かれた様子について話し合い、読み取ったことを生かして音読する。 ④「夕日がせなかをおしてくる」の題名から考えたことを話し合う。 ⑤詩を音読し、表現のおもしろさを見つける。 ⑥一連と二連を比べ、読み取ったことを生かして音読する。</p>	<p>知 ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○情景について、具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで詩に描かれた様子を想像し、学習課題に沿って、詩を音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
9月	5 様子をくわしく書こう つたえたいことがいっぱい 8時間（書⑥） 教：3上p114～117 ◇日々の出来事とそのときの思いを整理して内容のまとまりを考え、伝えたいことがよく分かるような文章を書くことができる。（ 知 (1)ア、オ、 書 (1)イ、オ）	①毎日の出来事から、伝えたいことを出し合う。 ②文章例を読み、文章の書き方を捉える。 ③これまでの出来事を振り返り、伝えたい出来事を決める。 ④伝えたいことを表に整理して、それをもとに文章の下書きを書く。 ⑤下書きを読み返し、修正を加えて清書する。 ⑥文章を読み合い、感想を伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○書く内容の中心を明確にして、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ] ○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ] 学 ○進んで、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習課題に沿って様子が詳しくなるように工夫して書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉を聞き取る 校内放送を聞き取る 2時間（話聞②） 教：3上p118～119 ◇自分にとって必要な情報を聞き取り、大事な語句を書き留めることができる。（ 知 (2)イ、 書 (1)エ）	①校内放送を聞くときのこれまでの姿勢を振り返る。 ②お知らせのプリントに書かれている内容を確認、参加する活動を選ぶ。 ③校内放送を聞き、変更点を聞き取り、確認する。 ④聞き取り方やメモの取り方の工夫について話し合う。 ⑤工夫やポイントを意識して、もう一度校内放送を聞く。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 話 ○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。[思・判・表 A(1)エ] 学 ○積極的に話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習課題に沿って必要な語句を書き留めようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	考えのまとめ方・広げ方 考えをまとめよう、広げよう 6時間（書⑥） 教：3上p120～123 ◇集めた事柄を分類して整理したり、ある事柄について連想して考えを広げたりする方法を使い、書く内容を明確にすることができる。（ 知 (2)ア、イ、 書 (1)ア）	①事柄を整理して考えをまとめていく手段や方法を知る。 ②テーマに沿って意見を出し合い、カードに書いたものを仲間分けする。 ③整理したものを見せ合い、気付いたものをメモする。 ④つながりのある言葉を線で結び、考えを広げる方法を知る。 ⑤テーマを決めて思いついたことなどを図式化して見せ合う。 ⑥学んだ二つの方法やテーマから一つ選び、自分が伝えたいことを明確にして書く。 ⑦書いた図や文章をもとに交流し、学習の振り返りをする。	知 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報の関係について理解することができる。[知・技(2)ア] ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 書 ○集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 学 ○進んで考えを広げたり整理したりする方法を理解し、学習課題に沿って、文章にまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]
10月	言葉をおくろう あんないじょうを書こう 4時間（書④） 教：3上p124～127 ◇案内するときに必要なことや書き方を捉え、案内状を書くことができる。（ 知 (1)キ、 書 (1)イ、エ、(2)イ）	①案内状をもらった経験やそのときの気持ちを想起する。 ②案内状の書き方を確かめ、案内状を出す相手と内容を決める。 ③伝えたいことをメモに整理し、友達と読み合う。 ④メモをもとに案内状の下書きを書き、宛名も書く。 ⑤書いたものを読み返したり、友達と読み合ったりする。 ⑥下書きをもとに清書し、読み返す。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。[知・技(1)キ] 書 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ] ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○積極的に伝えたい内容を明確にし、丁寧な言葉を使いながら、学習課題に沿って案内状を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元名・教材名・時数・主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	ローマ字 3時間（知技③） 教：3上p128～131 ◇身の回りにある簡単な単語について、ローマ字表記されているものを読んだり、ローマ字で書いたりすることができる。（知(1)ウ）	①ローマ字の清音を読み書きする。 ②ローマ字の仕組みを知り、書き取り練習をする。 ③ローマ字の表記の仕方を確かめる。	知 ○日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。[知・技(1)ウ] 学 ○積極的にローマ字表記のきまりを確かめ、学習課題に沿って、ローマ字を読んだり書いたりしようとしている。[学びに向かう力、人間性等]
	2年生で習った漢字③ 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：3上p132 ◇2年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。（知(1)エ、書(1)エ）	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	いきもの 1時間 (読①) 教：3下p①～1 ◇詩に描かれた様子や込められた思いを想像し、工夫して音読することができる。(知：(1)久、読：(1)エ)	①「いきもの」を音読し、感想やおもしろい表現について出し合う。 ②描かれている様子を想像しながら工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。	知 ○内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○情景について、具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○進んで詩に描かれた様子を想像したり、作者の思いを考えたりし、今までの学習を生かして音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉から想像しよう 言葉と言葉のつながりを楽しもう 3時間 (知技①話聞②) 教：3下p6～9 ◇イメージしたことを表す言葉の働きに気付き、語彙を豊かにすることができる。(知：(1)ア、オ、読：(1)オ)	①p6の課題に取り組み、想像をもとに言葉を広げる。 ②グループやペアでイメージした言葉をつなげる課題に取り組み。 ③限られた回数でもとの言葉にもどるように、ペアで取り組む。 ④ゴールの言葉につながらないように、ペアで取り組む。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 読 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 話 ○目的や進め方を確認し、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。[思・判・表A(1)オ] 学 ○進んで、言葉の感覚を豊かにしながら、学習課題に沿って話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]。
	1 要約してつながりを読もう ネコのひげ 5時間 (読⑤) 教：3下p10～17 ◇ネコのひげの仕組みと働きを要約し、分かったことを伝え合うことができる。(知：(1)ク、(2)ア、読：(1)ア、ウ、(2)ア)	①全文を音読し、めあてを確かめる。 ②ネコやひげのある動物について知っていることを出し合う。 ③文章全体を三つに分け、問いの文とその答えの文を見つける。 ④「中」の形式段落の事例を確かめ、要点をつかむ。 ⑤形式段落の要点をもとに要約する。 ⑥ネコのひげの仕組みと働きについて、要約文をもとに話し合う。 ⑦感想を伝え合い、友達の感想との違いをまとめる。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 学 ○段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)ア] 学 ○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。[思・判・表C(1)ウ] 学 ○進んで筆者の考えと事例とのつながりを捉え、学習課題に沿って読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	長い間使われてきた言葉を知ろう 慣用句 2時間 (知技②) 教：3下p18～19 ◇慣用句について知り、生活の中で使うことができる。(知：(2)イ、(3)イ)	①教材文を読んで慣用句を知り、知っている慣用句について話し合う。 ②辞典などを使って慣用句を調べ、意味や使い方をカードにまとめる。 ③慣用句を使って作った短文を発表し合う。	知 ○辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 読 ○長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。[知・技(3)イ] 学 ○進んで慣用句の意味などを調べ、学習課題に沿って作った短文を発表し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	きせつのはり 秋 1時間 (書①) 教：3下p20～21 ◇秋の行事に興味をもち、それに関わる言葉を集めたり、思い出したことを書いたりすることができる。(知：(1)オ、書：(1)ア)	①秋の行事のイラストを見て、めあてを確かめる。 ②体験した秋の行事を思い出し、発表する。 ③体験した行事の中から選んだものをカードにまとめる。 ④カードをもとに交流する。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] 学 ○進んで季節に関わる語句の量を増し、学習課題に沿って体験した秋の行事についての文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
11月	2 絵から読み取ったことを話そう ミニギャラリーの解説委員になろう 6時間（話⑥） 教：3下 p22～29 ◇聞き手に分かるように解釈と想像したことを関係付けながら解説内容を整理し、話の構成や話し方を考えて話すことができる。〔知：(1)ア、イ、書：(1)イ、エ、(2)ア〕	①学習課題とめあてを確かめ、見通しをもつ。 ②絵から見えることや想像したことを自由に書き出し、それをもとに友達と話し合う。 ③教科書の例を参考に、書き出したことを表にまとめる。 ④表をもとに、話の組み立て（「話の中心」「見えること」「想像したこと」「注目したこと（中心→周辺、人物描写→情景描写など）」を考え、解説用の原稿メモを作成する。 ⑤グループで解説の練習をし、友達の助言をもとに解説する内容を付け足したり補ったりする。 ⑥絵を指し示しながら、話し方を工夫して解説し合う。 ⑦友達の解説を聞いて、解釈の違いや構成、話し方について、よいところを伝え合う。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。〔知・技(1)ア〕 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。〔知・技(1)イ〕 話 ○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。〔思・判・表A(1)イ〕 ○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。〔思・判・表A(1)エ〕 学 ○進んで解説内容を整理し、学習の見通しをもって話の中心を明確にして話そうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	文章の書き方・まとめ方 作文をよりよくしよう 2時間（書②） 教：3下 p30～31 ◇よりよい文章にするために、間違いを正したり書き表し方を確かめたりして、文章を整えることができる。〔知：(1)ウ、カ、書：(1)エ〕	①例を参考に、推敲の視点や書き表し方を確かめる。 ②推敲することのよさについて話し合う。 ③今まで書いた行事作文や日記などを読み返し、推敲する。 ④学習の振り返りをする。	知 ○改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。〔知・技(1)ウ〕 ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。〔知・技(1)カ〕 書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。〔思・判・表B(1)エ〕 学 ○進んで間違いを正したり書き表し方を確かめたりして、今までの学習を生かして文章を整えようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	漢字の広場 1時間（知技①） 教：3下 p22 ◇3年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。〔知：(1)エ〕	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第3学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。〔知・技(1)エ〕 学 ○進んで3年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	2年生で習った漢字① 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：3下 p33 ◇2年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。〔知：(1)エ、書：(1)エ〕	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。〔知・技(1)エ〕 書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。〔思・判・表B(1)エ〕 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
11月	ゆたかに表現しよう ほかのものになりきって 6時間(書⑥) 教：3下p34～35 ◇ほかのものになったつもりで想像をふくらませ、表現を工夫して詩を書くことができる。(知：(1)ア、書：(1)ア、オ、(2)ウ)	①モデルの詩の題名を考え、なりきり詩を作る学習課題をつかむ。 ②何になりきるかを決め、見えてくる風景や聞こえてくる会話などを想像して、ノートに書く。 ③ノートをもとになりきり詩を書く。 ④よりよい表現になるように読み合い、アドバイスをし合う。 ⑤書いた詩をもとによりどころなどを伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 書 ○目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで想像したことを、よりよい表現になるよう工夫し、学習の見通しをもって詩に表そうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉のきまり1 こそあど言葉 2時間(知技②) 教：3下p36～37 ◇指示語の働きや種類を理解し、状況に合わせて適切に使うことができる。(知：(1)カ)	①教科書の絵と解説を見て、指示語の働きと種類を確かめる。 ②教科書の絵に合う指示語を考える。 ③考えた指示語を使った文を友達と出し合い、状況に合わせた正しい方を確かめる。 ④既習の説明文などから指示語を見つけ、指し示す内容を確認し合う。	知 ○指示する語句の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] 学 ○進んで指示する語句の役割と種類を理解し、今までの学習を生かして、状況に合った指示語を適切に使用しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
12月	3 人物の変化を読もう モチモチの木 6時間(読⑥) 教：3下p38～55 ◇場面の移り変わりから、登場人物の性格や気持ちの変化を捉え、感想をもつことができる。(知：(1)ク、読：(1)イ、エ、カ、(2)イ)	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②初発の感想を交流する。 ③挿絵をもとに、豆太の様子を確かめ、全体をつかむ。 ④叙述をもとに、場面ごとに豆太の気持ちを想像し、豆太の性格を捉える。 ⑤場面の移り変わりから、豆太の気持ちの変化とそのきっかけを捉える。 ⑥豆太の性格について、自分の経験と重ねて話し合う。 ⑦挿絵を比べながら読み、視覚情報による印象の違いについて話し合う。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで人物の性格や気持ちを捉え、学習課題に沿って読み取ったことをもとに感想を伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉のきまり2 言葉のなかま分け 2時間(知技②) 教：3下p56～57 ◇言葉には、性質によるまとまりがあることを理解し、適切に分類することができる。(知：(1)オ)	①教科書p56の課題に取り組み、自分が考えた分類の仕方を発表し合う。 ②言葉の性質に着目し、物の名前を表す語句、動きを表す語句、様子を表す語句、のまとまりに分けられることを確かめる。 ③教科書の絵や身の回りから見つけた言葉を出し合い、どのまとまりに当てはまるか、確かめたり文を作ったりする。 ④作った文を出し合い、それぞれのまとまりの役割を確かめる。	知 ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 学 ○進んで性質や役割による語句のまとまりについて理解し、今までの学習を生かして、言葉を分類しようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
12月	<p>4 ぎ問を調べて書こう 「はてな」を調べて書こう 9時間（書⑨） 教：3下 p58～61</p> <p>◇疑問を解決するために調べる方法を選び、分かったことと自分の考えとを整理して、報告する文章にまとめることができる。（知：(1)カ、キ、書：(1)イ、ウ、(2)ア）</p>	<p>①学習課題と進め方を確かめる。 ②身の回りの疑問について話し合う。 ③p59の文例をもとに、文章の組み立てや段落の分け方を確かめる。 ④調べたい疑問を決め、調べたいことに合った方法を選ぶ。 ⑤疑問について調べたことをカードに記録する。 ⑥調べたことを整理し、組み立てメモにまとめる。 ⑦組み立てメモをもとに、報告文を書く。 ⑧互いの報告文を読み合い、調べたことの内容や説明の仕方について、感想や意見を伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] ○敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。[知・技(1)キ] 書 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思・判・表B(1)イ] ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)ウ] 学 ○進んで書く内容を整理して構成を考え、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>読書を広げよう 本のポップを作ろう 3時間（知技②読①） 教：3下 p62～65</p> <p>◇本のポップを作り紹介し合うことで、読書の楽しさを味わうことができる。（知：(3)オ、読：(1)オ、(2)イ）</p>	<p>①教科書本文を読み、学習課題を確かめる。 ②好きな本を選び、文を書き出したり推薦理由を考えたりする。 ③提示された例を参考に、本のポップを作る。 ④ポップをもとに、好きな本の内容を友達と伝え合う。 ⑤ポップで紹介された本や「読書の部屋」を見て、読書への意欲をもつ。</p>	<p>知 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。[知・技(3)オ] 読 ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思・判・表C(1)オ] 学 ○進んで読書に親しみ、今までの学習を生かして作ったポップをもとに好きな本を紹介し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
1月	<p>きせつのたより 冬 1時間（書①） 教：3下 p66～67</p> <p>◇冬の行事に興味をもち、それに関わる言葉を集めたり、思い出したことを書いたりすることができる。（知：(1)オ、書：(1)ア）</p>	<p>①冬の行事のイラストを見て、めあてを確かめる。 ②体験した冬の行事を思い出し、発表する。 ③体験した行事の中から選んだものをカードにまとめる。 ④カードをもとに交流する。 ⑤学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] 学 ○進んで季節に関わる語句の量を増し、学習課題に沿って、体験した冬の行事についての文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>みんなにつたえよう これはわたしにおまかせください 2時間（話聞②） 教：3下 p68～69</p> <p>◇日常生活の中から話題を決め、話す内容や聞き手を意識して工夫して話したり、話の中心を考えながら聞いたりすることができる。（知：(1)イ、キ、話：(1)ア、ウ）</p>	<p>①モデル文をもとに、自分に任せてほしいことについてスピーチするという課題をつかむ。 ②話したい事柄を選び、エピソードや理由などをもとに、話の組み立てを考える。 ③表現の仕方を工夫しながら、自分に任せてほしいことを話す。 ④友達のスピーチを自分と比べながら聞き、質問したり感想を伝えたりする。 ⑤学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。[知・技(1)イ] ○丁寧な言葉を使うことができる。[知・技(1)キ] 話 ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表A(1)ア] ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。[思・判・表A(1)ウ] 学 ○積極的に日常生活から課題を決め、今までの学習を生かして工夫して話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
1月	<p>言葉のいずみ① 漢字の組み立て（部首） 2時間（知技②） 教：3下p70～71</p> <p>◇漢字が「へん」「つくり」「かんむり」「あし」「たれ」「にょう」「かまえ」などの部首と、その他の部分によって構成されていることを理解することができる。（知：(3)ウ）</p>	<p>①教科書に例示された漢字を見ながら、漢字がいくつかの部分から組み立てられていることを確かめる。 ②教科書に例示された漢字の共通部分を見つけ、「へん」「つくり」など、部首がある位置や名前を確かめる。 ③それぞれの部首の代表的な例を確かめ、課題に取り組み、同じ部首の漢字から意味の共通性を知る。 ④これまで学習した漢字の部首を見つけ、友達と確かめ合う。</p>	<p>知 ○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。[知・技(3)ウ] 学 ○進んで漢字の構成について理解し、これまでの学習を生かして、漢字の形と意味の対応を考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>想像を広げよう 写真が動き出す 9時間（書⑨） 教：3下p72～75</p> <p>◇写真から想像したことから物語に書くことを選び、文章全体の構成を考えて物語を書くことができる。（知：(1)ア、書：(1)ア、<u>イ</u>、オ、(2)ウ）</p>	<p>①写真を見て、「季節」「時間」「場所」のほか、人物や気持ちなど、気付いたことを出し合う。 ②写真の前後の出来事を想像して、出し合う。 ③例文を参考に、物語の設定や大まかな構成を考え、物語を作る。 ④例示された四枚の写真から一枚を選び、設定や構成を考える。 ⑤まとめたものをもとに物語を作る。 ⑥できあがった物語を読み合い、よいところや感想を伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 書 ○目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思・判・表B(1)イ] ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで想像したことをもとに全体の構成や話のすじを考え、学習課題に沿って物語を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
2月	<p>5調べたことをほうこくしよう 遊びをくらべよう 7時間（話聞⑦） 教：3下p76～82</p> <p>◇調べて分かったことを報告するために、取材で集めた情報を整理し、聞き手に分かりやすく話すことができる。（知：(2)イ、話：(1)ア、<u>ウ</u>、<u>エ</u>、(2)イ）</p>	<p>①学習課題とめあてを確かめ、見通しをもつ。 ②普段している遊びについて出し合う。 ③出し合った遊びについて観点を決めて分類し、比べたことを報告する遊びを決める。 ④調べる方法や準備などの計画を立て、実際に取材を行う。 ⑤取材で集めた材料をもとに、表に整理する。 ⑥整理した表をもとに遊びを比べ、共通点や相違点などをまとめる。 ⑦表をもとに、話の組み立てを考える。 ⑧報告会を開いてグループごとに発表し、感想を伝えたり質問をしたりする。 ⑨聞き手に分かりやすく報告できたかなど、学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○比較や分類の仕方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 話 ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表A(1)ア] ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、問の取り方などを工夫することができる。[思・判・表A(1)ウ] ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉え、自分の考えをもつことができる。[思・判・表A(1)エ] 学 ○進んで調べた情報を分類して整理し、学習の見通しをもって聞き手を意識して話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>2年生で習った漢字② 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：3下p83</p> <p>◇2年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。（知：(1)エ、書：(1)エ）</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。</p>	<p>知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
2月	6 分類して整理しながら読もう 冬眠する動物たち 5時間 (読⑤) 教：3下 p84～91 ◇事例を分類して整理し、段落相互の関係をつかむことで、筆者の見方を捉え、感想をもつことができる。〔知：(1)カ、(2)イ、読：(1)ア、オ〕	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②冬眠や冬の動物の様子について知っていることを出し合う。 ③事例を整理し、確かめる。 ④筆者の見方(分類の仕方)を捉え、事例を表にまとめる。 ⑤文章全体の組み立てを考え、段落相互の関係をつかむ。 ⑥感想を伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○接続する語句の役割について理解することができる。〔知・技(1)カ〕 ○分類の仕方を理解し使うことができる。〔知・技(2)イ〕 読 ○段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。〔思・判・表C(1)ア〕 ○文章を読んで理解にしたことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思・判・表C(1)オ〕 学 ○進んで筆者の見方や文章の構成を捉えるための方法を考え、学習課題に沿って読み進めようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	文章の書き方・まとめ方 つながりを考えて書こう 4時間 (書④) 教：3下 p92～95 ◇内容のまとめりごとに段落を作り、それぞれの段落の関係やつながりを考えながら、簡単な説明文を書くことができる。〔知：(1)カ、(2)ア、書：(1)イ〕	①例示された文章を読み、それぞれのまとめりがどの役割に当たるかを考える。 ②例示された説明文について、なぜそのような構成になっているかを話し合う。 ③例示された表にある「話題提示」の文と「事例」の文を参考にして、説明文を完成させる。 ④書いた文章を読み合い、つながりのある文章になっているかを確かめる。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。〔知・技(1)カ〕 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。〔知・技(2)ア〕 書 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとめりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。〔思・判・表B(1)イ〕 学 ○進んで段落の関係や全体の構成を考え、学習課題に沿って文章にまとめようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	言葉を受け止めよう 心をとげよう、受け止めよう 2時間 (話聞②) 教：3下 p96～97 ◇よりよい会話について考え、自分の気持ちを正しく伝えることができる。〔知：(1)ア、イ、話：(1)オ〕	①教科書に例示された会話文をもとに、ペアになって役割音読をする。 ②伝わり方について、感じたことや気付いたことを出し合う。 ③どのように伝えたら相手の気持ちに立ったよりよい会話になるかを話し合い、別の言葉で補ったり抑揚など話し方を考えたりする。 ④モデルの会話と言いかえた会話との違いを話し合い、返答の仕方によって相手の話しやすさがどう変わるかを考える。 ⑤言葉や言葉以外の表情や態度について考え、学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。〔知・技(1)ア〕 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。〔知・技(1)イ〕 話 ○目的を確認し、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。〔思・判・表A(1)オ〕 学 ○進んで話したり聞いたりするときの言葉や態度について考え、今までの学習を生かして話し合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
3月	7 おもしろさを見つけて読もう わのおじいさんのたから物 6時間 (読⑥) 教：3下 p98～109 ◇設定やあらすじ、表現などに着目して問いを作り、叙述をもとに互いの読みを交流しながら、読み深めることができる。〔知：(1)オ、読：(1)イ、エ、カ〕	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②おもしろかったことなど、初発の感想を出し合う。 ③感想をもとに問いを作る。 ④叙述をもとに意見を出し合う。 ⑤想像したこととそのわけを交流する。 ⑥これまでの読みから捉えた人物の性格をもとに、最後の場面について想像し話し合う。 ⑦まとめの感想を出し合う。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。〔知・技(1)オ〕 読 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。〔思・判・表C(1)イ〕 ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。〔思・判・表C(1)エ〕 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。〔思・判・表C(1)カ〕 学 ○進んで登場人物の気持ちや性格などを想像し、学習課題に沿って互いの読みを交流しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
3月	<p>言葉のいずみ2 漢字の書き方 2時間(知技②) 教:3下p110～111</p> <p>◇漢字の書き方を確かめ、意味を表す部分と、音を表す部分によって構成されている漢字があることを理解することができる。(知):(3)ウ)</p>	<p>①これまで習った漢字の書き方のほかに、意味と音を組み合わせた漢字があることを確かめる。 ②教科書の課題①に取り組み、できた漢字の音読みを確かめる。 ③教科書の課題②に取り組み、共通した音を表す部分を見つけ、出し合う。</p>	<p>知 ○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。[知・技(3)ウ] 学 ○進んで漢字の構成について理解し、これまでの学習を生かして、漢字の意味と音を表す部分を説明しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>ローマ字 2時間(知技②) 教:3下p112～113</p> <p>◇ローマ字の表記を理解し、ローマ字でコンピューターに文字を入力することができる。(知):(1)ウ)</p>	<p>①ローマ字の表記の仕方を、五十音表をもとに思い出す。 ②ローマ字には大文字と小文字の二種類があることを知り、自分の名前や住所をローマ字で書き表す。 ③訓令式とヘボン式の二通りの表記の仕方があることを知り、身の回りからローマ字表記で表されている事柄を見つけて出し合う。 ④コンピューターのローマ字入力の方法や、変換の仕方を確かめる。</p>	<p>知 ○第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。[知・技(1)ウ] 学 ○積極的にローマ字表記の仕方を理解し、今までの学習を生かしてローマ字入力をしようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>言葉で遊ぼう 1時間(知技①) 教:3下p114</p> <p>◇二つの意味に取れる文やだじゃれ文などの言葉遊びを通して、語句の量を増やし、日本語の豊かさに触れることができる。(知):(1)オ)</p>	<p>①教科書p114上段の例文を読み、二つの意味に取れる文について確かめる。 ②同様の文がほかにもないか、グループで考え、発表し合う。 ③教科書p114下段の例を参考に、だじゃれバトルの仕方を確かめる。 ④グループごとに「だじゃれ」を考え、だじゃれバトルを行う。</p>	<p>知 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 学 ○進んで二つの意味に取れる文や「だじゃれ」を考え、課題に沿って言葉遊びを楽しもうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>2年生で習った漢字③ 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教:3下p115</p> <p>◇2年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知):(1)エ、書):(1)エ)</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や指示語、漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。</p>	<p>知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)エ] 学 ○提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>これからのあなたへ なにかをひとつ 1時間(読①) 教:3下p116～117</p> <p>◇詩を読んで作者の思いを想像し、自分の体験や夢などと結び付けて、感想をもつことができる。(知):(1)ア、読):(1)オ)</p>	<p>①「なにかをひとつ」を、対句や律などの表現を楽しみながら音読する。 ②詩から受け取った作者の思いを想像し、感想を交流する。 ③学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 読 ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思・判・表C(1)オ] 学 ○進んで作者の思いを想像し、今までの学習を生かして読み取ったことと自分の経験を結び付けて感想をもとうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
3月	<p>三年生をふり返って 2時間(書②) 教:3下p118~120</p> <p>◇三年生での国語学習を振り返り、ためになったことやこれからも続けたいことを考えて書くことができる。[知:(1)ウ、キ、書:(1)イ、オ]</p>	<p>①一年間の国語学習を振り返り、頑張ったことやこれからも続けたいことなどを友達と話し合う。</p> <p>②書くことをメモに書き出し、簡単な構成を考える。</p> <p>③一年間を振り返る文章をノートに書く。</p> <p>④友達と読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>⑤学習を振り返り、これからの学習について話し合う。</p>	<p>知 ○改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。[知・技(1)ウ]</p> <p>○敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。[知・技(1)キ]</p> <p>書 ○内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思・判・表B(1)イ]</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。[思・判・表B(1)オ]</p> <p>学 ○積極的に一年間で学んだことを思い出し、今までの学習を生かして文章にまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>